

## オープン市場短信 (2007年9月)

2007.9.12

### ◆8月のCP市場動向

8月のCP新規発行額は、期落ち(約5兆7,000億円:当月発行分含む)とほぼ同額の約5兆7,000億円強となった(除く、ABCP・金融機関発行CP)。建設・不動産・商社等が積極的に残高を積み上げ、運輸・小売業等や季節要因で残高を落とした電力・瓦斯などの減少分を補っていた。企業の資金調達ニーズは根強いが、一般事業法人では9月末の有利子負債圧縮を意識して、9月月中や期末日に償還を設定する案件が目立っていた。

発行レートは、米国のサブプライム問題の影響を受けてCPに対するクレジットリスク意識が強まり、8月利上げ観測が後退する中であっても、中旬以降も強含み状態が続く結果となった。月末近辺には短国対比のスプレッド拡大による運用妙味もあって、優良銘柄中心に低下地合いとなった。しかし、低位格付け銘柄やリース銘柄に関しては運用側の慎重な姿勢が続き、レートは高止まりのまま越月した。

《銘柄別の発行レート》

#### 8月のCPレートレンジ

単位 %

格付	1ヵ月	2ヵ月	3ヵ月
格付 a-1+(オペ適格)	0.601 ~ 0.720%	0.7 ~ 0.730%	ケ0.75 ~ 0.776%
格付 a-1 (オペ適格)	0.609	0.73 ~ 0.825%	0.758 ~ 0.829%
格付 a-1+(リース銘柄)	0.599 ~ 0.659%	ケ0.7	0.779 ~ 0.829%
格付 a-1 (リース銘柄)	0.672 ~ 0.819%	0.75 ~ 0.820%	0.765 ~ 0.850%
格付 a-2	0.6 ~ ケ0.90%	0.825 ~ ケ1.20%	0.855 ~ ケ1.50%

《CP オペ》

8/08に期日が到来したが、月内に新規オペは実行されなかった。サブプライム問題について、国内では格別信用収縮は見られず、CP取引に支障も生じていないため、通常の資金需給の振れに対してはCPオペの必要はないということであろう。

8月末のCPオペ残高

8月末のCP現先オペ残高・・・0億円

《ABCP》

8月末のABCPの発行残高は、前月比約2,291億円減少して約3兆9,495億円となり、前年同月(4兆1,462億円)比では1,952億円の減少となった。日本国内で流通しているABCPは米国のABCPと異なり、売掛債権主体のプログラムであるため、その信用度・流通性に問題が生じる可能性は低い。今回のサブプライム問題の影響で投資家の中には運用を敬遠する向きもあったようである。

《短期社債残高》

証券保管振替機構発表によると、短期社債の8月末発行残高は21兆7,902.81億円と前月比約224億円増加し、月末時点の残高としては過去3番目の高水準の残高となった。

事業法人の発行が若干減少し、その他金融が残高を落としたものの、証券・銀行の一部が期末越えの資金調達に積極的であったことから、その減少分をカバーしたことがあった。発行登録企業456社中、既発行企業は425社、うち8月中の新規発行は3社であった。

《現先市場》

月中現先レートは、月初安定していたがサブプライム問題の影響から、外国銀行・外

国証券がインターバンク・レポ市場で資金を取り上がったこともあって、CP現先レートも中旬以降強含みとなった。月前半は0.53%~0.58%、中旬以降は0.60~0.70%の出会いとなった。

#### ◆9月のCP市場動向

9月中のCP償還額は、前年（約4兆8,000億円）を大きく上回る6兆1,000億円弱となっている（除く金融機関発行CP・ABCP）。9月は、中間期末で有利子負債の圧縮を行なう企業が増加することから期越物の発行は減少、リース会社中心となって一般事業法人の発行は限定的なものとなるため、発行残高は減少が見込まれる。

米国のサブプライムローン問題が金融市場において世界な不安材料となってきており、また日本の経済指標も弱いものが出てきている中、年内利上げ見通しには否定的な見方が増えつつある。CP金利は、8月中旬以降サブプライム問題で生じたクレジットリスクと期越えのプレミアムによる投資家の慎重な運用姿勢から、対短国比10~20BPのスプレッドが生じていた。しかし、9月に入って金利見通しの変化や運用玉の減少から、徐々に投資家の運用ニーズが強まり発行レートは弱含みとなりつつある。今後は、クレジットリスクとの見合いで短国レートにどれだけ近づくか注目される。

9月期越え1M物は0.65%前後から0.75%割れでの出合いを予想。2~3M物は、0.70~0.80%近辺での出合いが予想される。

#### 《CPオペ》

9月中の期日到来はなし。需給関係も含めた総合的な判断によって、オペ実施の有無が決定されることになろう。

#### 《現先市場》

足元現先レートは、8月後半から高止まり状態（0.60%前後）であったが、9月入り後はレポ市場金利の低下と共に低下、11日現在S/N物は0.52%近辺での出会いとなっている。もっとも、準備預金の新しい積み期間がスタートするとインターバンクレートやレポレートが引締まり、足元現先レートは再び強含みに転じると思われる。月中現先レートは、S/N物・ターム物とも0.52~0.65%の水準での出合いを予想する。

（松倉）

#### 参考資料

#### 業種別残高内訳

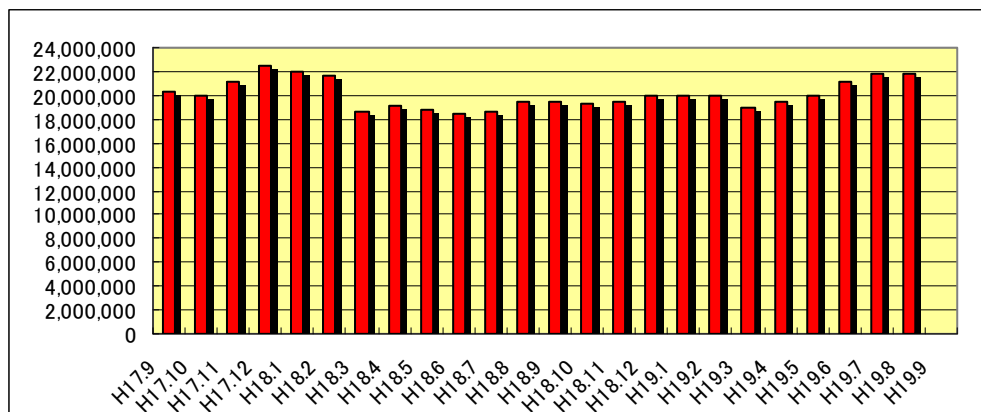
業種	8月末残高	7月末残高	単位:億円
			増減
事業法人	72,941	73,201	▲260
その他金融	74,618	76,040	▲1,422
金融機関	30,849	26,653	4,196
(銀行等	14,288	13,290	998)
(証券	16,561	13,363	3,198)
ABCP	39,495	41,786	▲2,291
計	217,903	217,679	224

(注:買入消却分含む)

## 短期社債月末残高 (H17年9月~H19年8月)

8月末発行残高：21兆7,902.81億円

発行登録企業：456社 (発行実績あり 425社) (単位：百万円)



## 8月末発行残高ベスト20

(単位：百万円)

	発行企業名	8月末残高
1	オリックス	931,200
2	三菱UFJリース	859,400
3	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	648,770
4	三菱UFJニコス	560,000
5	エイベックス・ファンディング・コーポレーション	549,710
6	野村証券	544,000
7	三菱商事	499,000
8	みずほコーポレート銀行	474,500
9	フォレスト・コーポレーション	451,865
10	日産自動車	450,000
11	東京電力	445,000
12	みずほ証券	378,000
13	新日本石油	376,000
14	住友信託銀行	357,000
15	GE ジャパン・ファンディング	346,360
16	住商リース	345,000
17	興銀リース	320,200
18	東京リース	317,200
19	アルカディア・ファンディング・コーポレーション	313,700
20	ミレニアム・ファンディング・アセット	310,920

参考出所 (株) 証券保管振替機構